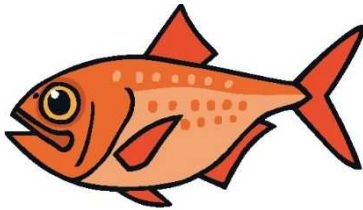


キンメダイ



- ・ 海山等の海底付近に生息し、銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- ・ 成長は遅く、満 2 歳で漁獲可能な尾叉長 19cm に達した後、4 歳で 27cm、6 歳で 31cm、8 歳で 34cm、10 歳で 35cm に達する。
- ・ 産卵期は 6～8 月。

資源評価

水準：低位

銚子沖：
勝浦沖：
東京湾口：



動向：

銚子沖：減少



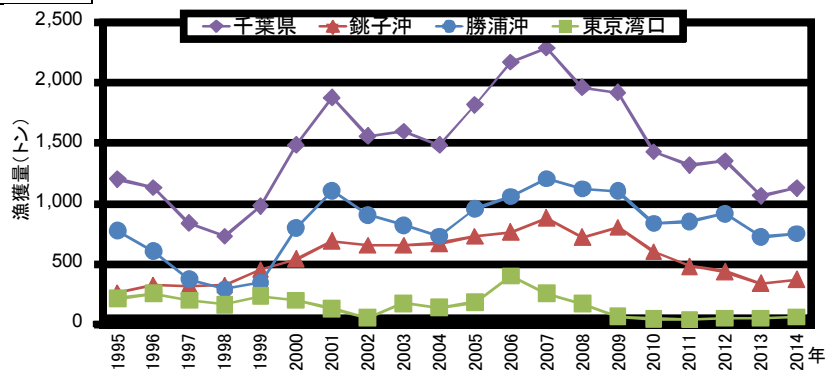
勝浦沖：横ばい



東京湾口：増加*



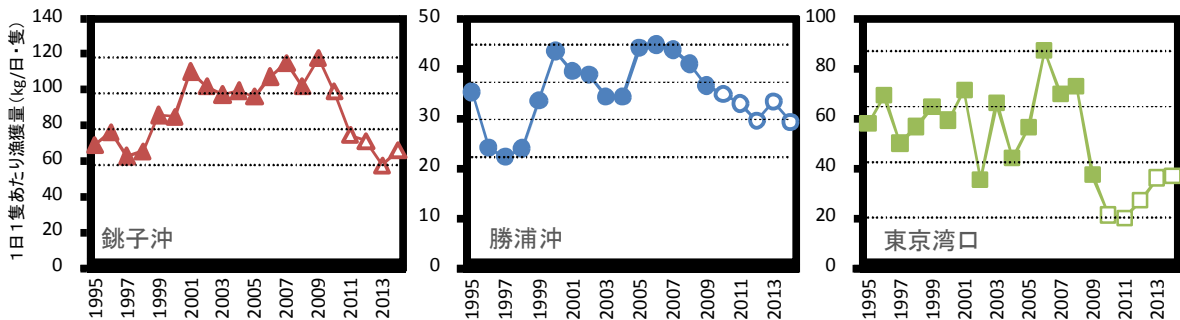
漁獲量



- ・ 千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には最大の 2,263 トンが漁獲された。
- ・ 2007 年以降の漁獲量は各漁場とも減少している。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は漁場ごとに 1995 年以降の 1 日 1 隻あたり漁獲量 (CPUE) で判断した。
- ・ 2014 年の資源水準は各漁場とも低位、最近 5 年間の動向は銚子沖では減少、勝浦沖では横ばい、東京湾口では増加である。
- ・ 東京湾口漁場における最近 5 年間の CPUE の増加の要因としては、近年若齢魚の漁獲量が増加していること以外にも、水揚優良船の影響を受けている可能性がある*。



銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場における 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

*東京湾口漁場では漁獲量の低迷、漁業者の高齢化等により出漁が控えられている。水揚優良船が好漁になると他船も出漁するようになってきており、結果として効率の良い操業になっていることから CPUE が増加している可能性がある。

資源管理の取り組み

- ・ 漁場ごとに小型魚の再放流（銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下、東京湾口全長 22 cm 以下）、針数・縄数の制限、休漁日の設定など漁業者により自主的な資源管理が行われている。

ヒラメ



- ・ 砂浜海岸に生息し、銚子～富津の沿岸で底びき網、刺網、定置網などにより漁獲される。
- ・ 1 歳で全長 35cm、2 歳で 45cm に成長し、3 歳以降は雌雄差が拡大し、5 歳では雄が 60cm に対して雌では 70cm に達する。
- ・ 産卵期は 3～6 月。
- ・ 1982 年から種苗放流を実施。

資源評価

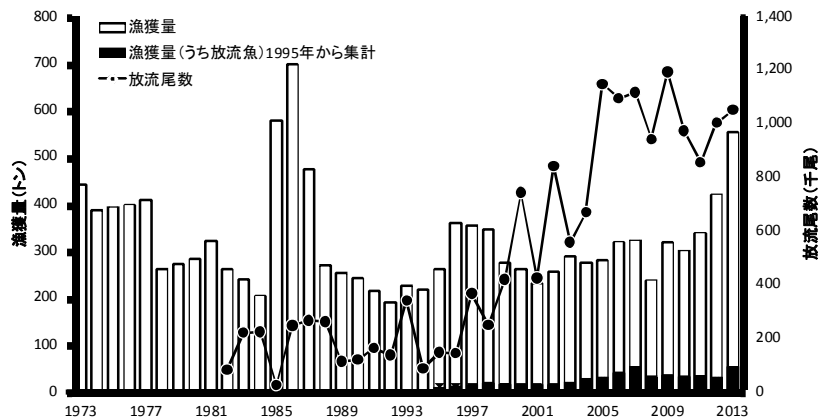
水準：高位



動向：増加



漁獲量

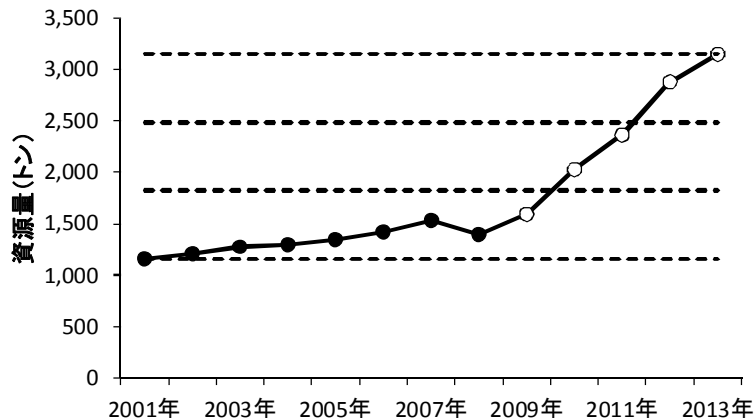


千葉県におけるヒラメ漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

1973 年以降 200～400t で推移し、1985～1987 年には漁獲量が一時的に増加した。近年の漁獲量は増加傾向にあり、2013 年は 550t 漁獲された。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、漁獲統計の資料から推定される資源量で判断した。
- ・ 2013 年の資源水準は最近 13 年間の中では高位、最近 5 年間の資源動向は増加。

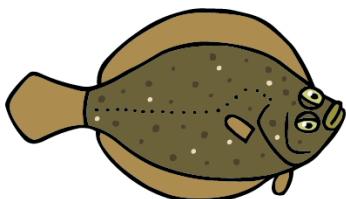


千葉県におけるヒラメ資源量の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 小型魚（全長 30cm 未満、底びき網は 25cm 未満）の再放流、刺網の設置時間制限、種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。

マコガレイ（東京湾）



- ・ 東京湾では内湾から内房海域で、底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991 年から種苗放流が行われている。

資源評価

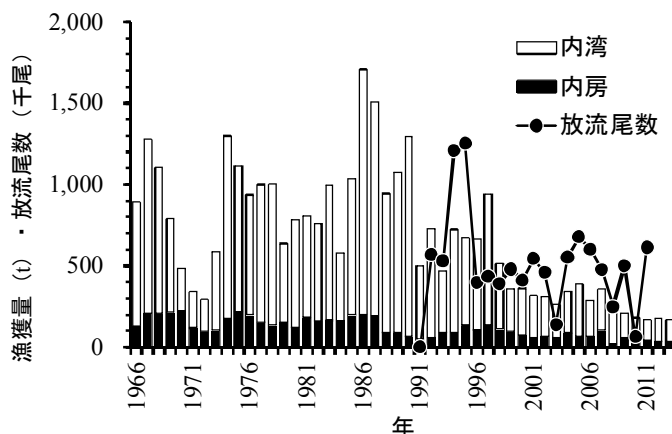
水準：低位



動向：増加



漁獲量

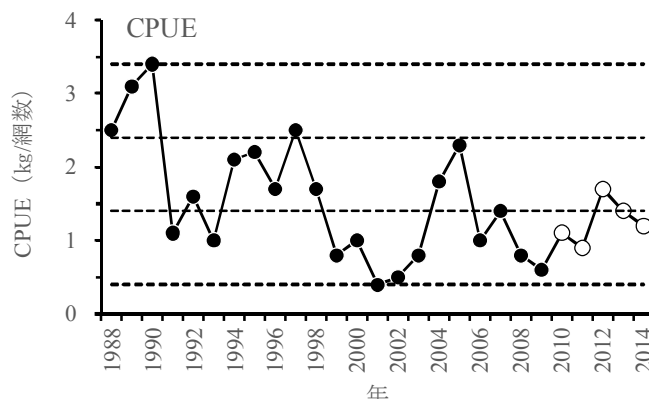


かれい類漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

東京湾におけるかれい類の漁獲量は、1970 年代まではイシガレイ主体で、その後、マコガレイ主体となったと考えられている。1980 年代後半～1990 年代前半に 1,000t を超える水揚げがみられていたが、近年は 200t 前後で低迷している。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、底びき網の操業日誌から集計した CPUE（1 網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2014 年の資源水準は低位、最近 5 年間の資源動向は増加だが、最近 3 年は減少傾向。

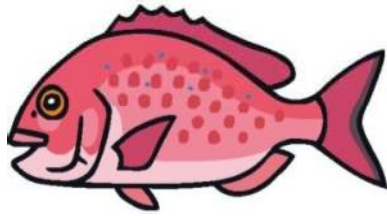


底びき網の標本漁船によるマコガレイの 1 網当たり漁獲量 (kg/網 ; CPUE) の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 東京内湾の底びき網では、休漁日の設定による漁獲圧の抑制・産卵期の保護、研究センターとの稚魚分布共同調査、稚魚保護のための禁漁区設定、種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。

マダイ



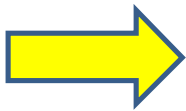
- ・ 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で底びき網、刺網、定置網などにより漁獲される。
- ・ 1歳で尾叉長 16cm、2歳で 24cm に成長し、4歳で 37cm となって体重は 1kg を上回り、6歳で 2kg を超える。
- ・ 産卵期は 3～6 月。
- ・ 1980 年から種苗放流を実施。

資源評価

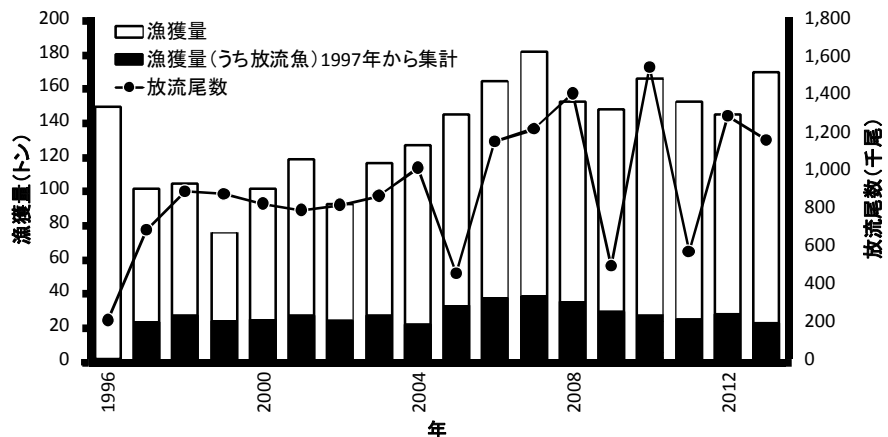
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量

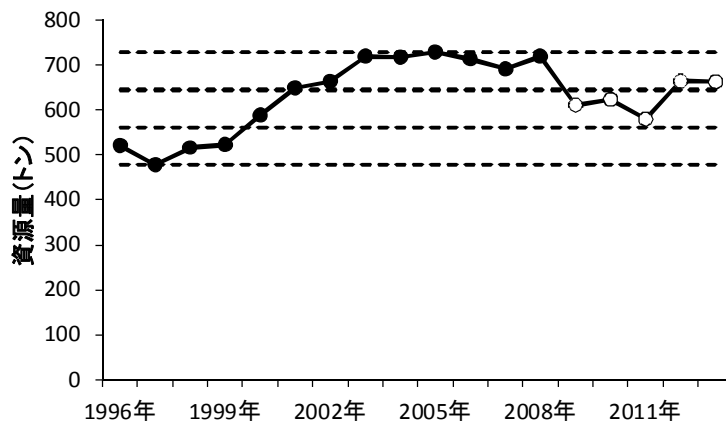


千葉県におけるマダイ漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

1999 年に 74t まで減少したが、それ以降は増加に転じ、2007 年は 180t 漁獲された。2008 年以降は 150t 前後で安定して推移し、2013 年は 163t の漁獲量があった。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、漁獲統計の資料から推定される資源量で判断した。
- ・ 2013 年の資源水準は最近 18 年間の中では高位、最近 5 年間の資源動向は横ばい。



千葉県におけるマダイ資源量の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 小型魚（全長 20cm 以下）の再放流、種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。

クロアワビ



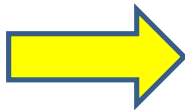
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し（メガイアワビより浅い）、主に外房地区で素潜り、潜水器により漁獲される。
- ・ 4～5 歳で殻長制限の 12 cm に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は 10 月～翌年 1 月。
- ・ 1968 年からアワビ類の種苗放流が行われている。

資源評価

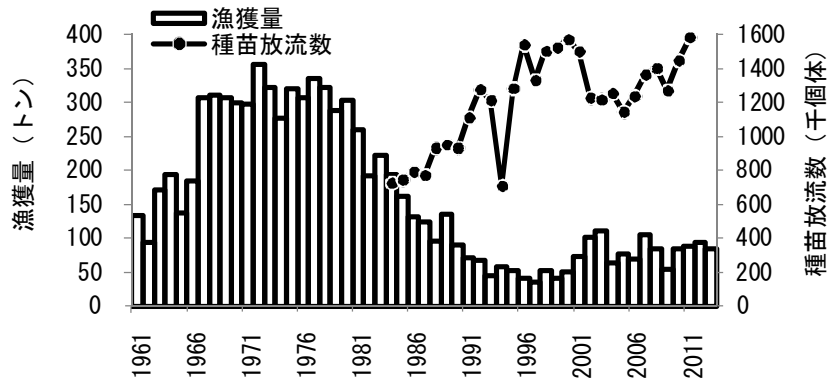
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量

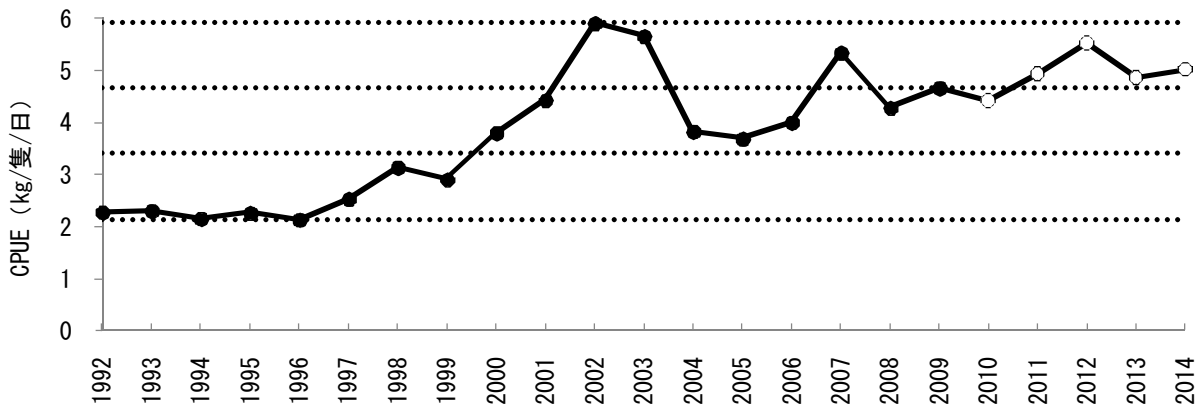


クロアワビ全県漁獲量（千葉県調べ）及び種苗放流数（栽培漁業種苗生産、入手・放流実績（全国））の経年変化

- ・ 最大は 1972 年の 355 トン。
- ・ 最低は 1997 年の 35 トン。
- ・ 2013 年は 83 トン。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場の素潜り漁業の CPUE で判断した。
- ・ 2014 年は最近 23 年間の高位。最近 5 年間の動向は横ばい。



クロアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業CPUEの経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻長制限（12 cm 以下は漁獲できない）と禁漁期間（9/16～3/31）が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策、禁漁区漁場の輪採制の導入及び稚貝保護区の設定等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

メガイ（メカイ）アワビ



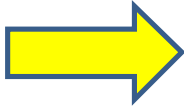
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し（クロアワビより深い）、主に外房地区で素潜り、潜水器により漁獲される。
- ・ 4～5 歳で殻長制限の 12 cm に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は 10 月～翌年 1 月。
- ・ 1968 年からアワビ類の種苗放流が行われている。

資源評価

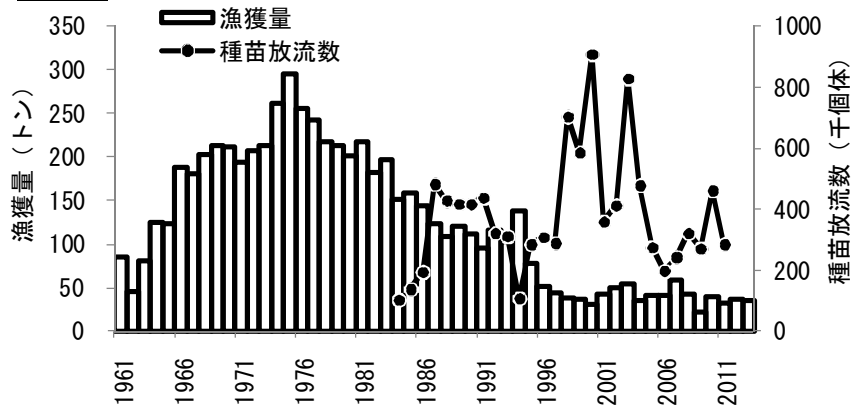
水準：低 位



動 向：横ばい



漁獲量

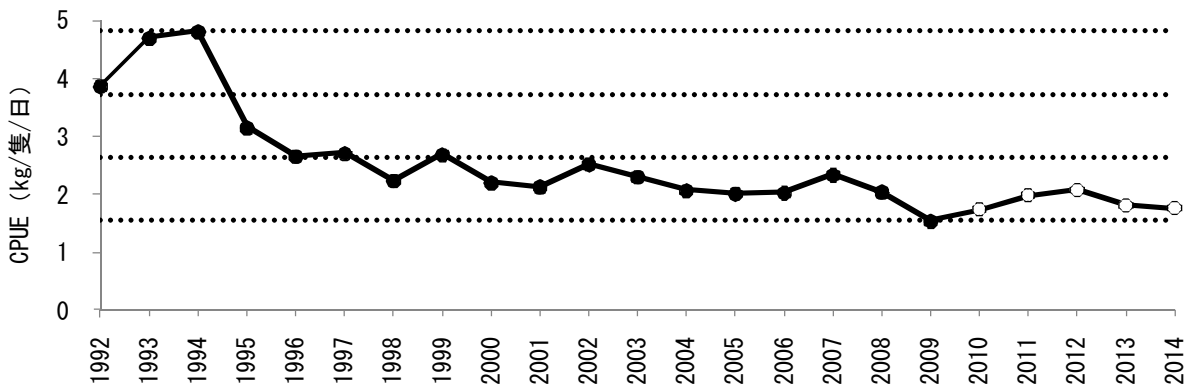


メガイアワビ全県漁獲量（千葉県調べ）及び種苗放流数（栽培漁業種苗生産、入手・放流実績（全国））の経年変化

- ・ 最大は 1975 年の 295 トン。
- ・ 最低は 2009 年の 22 トン。
- ・ 2013 年は 36 トン。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区一般漁場素潜り漁業 CPUE で判断した。
- ・ 2014 年は最近 23 年間の低位。最近 5 年間の動向は横ばい。



メガイアワビ主要地区一般漁場素潜り漁業CPUEの経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻長制限（12 cm 以下は漁獲できない）と禁漁期間（9/16～3/31）が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び稚貝保護区の設定等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

サザエ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺網、見突き、素潜り、潜水器により漁獲される。
- ・ 3～4 歳で殻高制限の 7 cm に達する。
- ・ 産卵期は 5～9 月。

資源評価

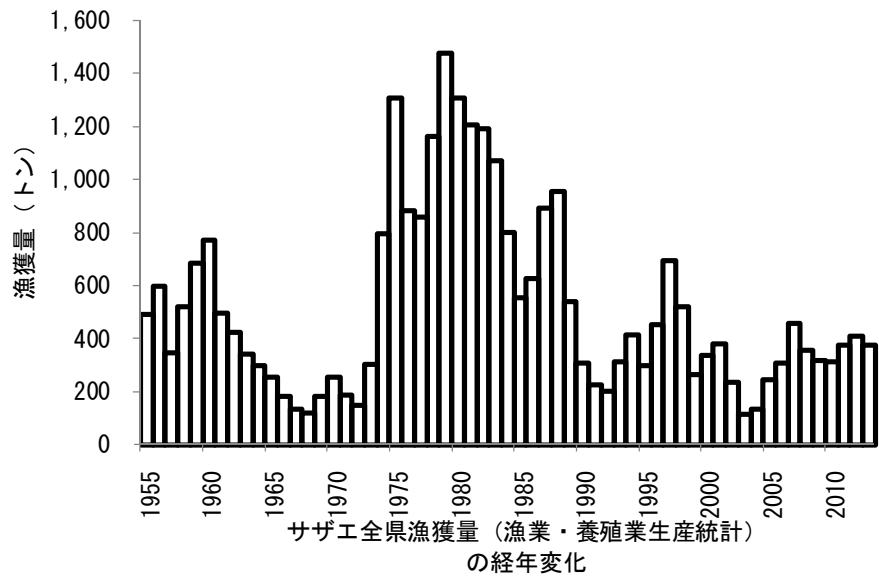
水準：中位



動向：減少



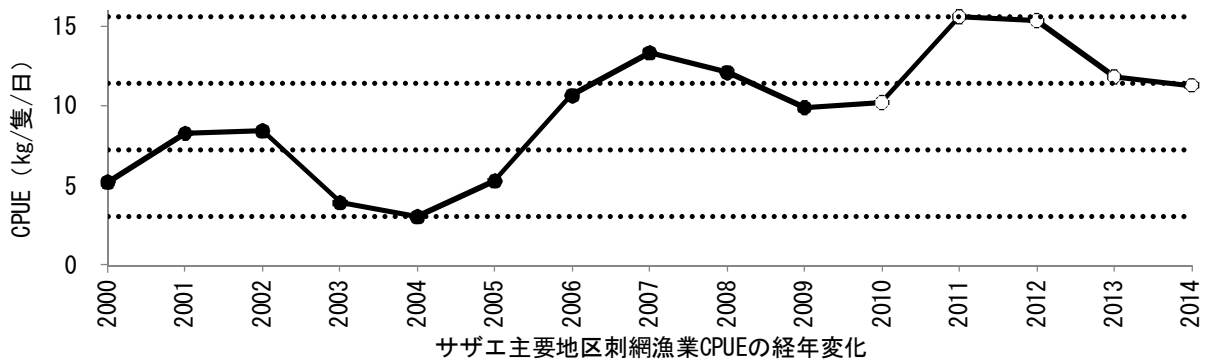
漁獲量



- ・ 最大は 1979 年の 1,474 トン。
- ・ 最低は 2003 年の 116 トン。
- ・ 2013 年は 376 トン。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区の刺網漁業の CPUE で判断した。
- ・ 2014 年は最近 15 年間の中位。最近 5 年間の動向は減少。



資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で殻高制限(7 cm 以下は漁獲できない)と禁漁期間(6/1～6/30)が定められている。
- ・ 1994 年以降、海区漁業調整委員会指示により 7/1～7/31 は原則採捕禁止とされている。
- ・ 一部地区で種苗放流を実施している。

チョウセンハマグリ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、県内では九十九里で貝桁網、鋤簾（じょれん）により、鴨川でろくろ曳きにより漁獲される。
- ・ 1歳で殻長約1cm、2歳で3~4cmに成長し、3歳で5~6cmとなり、寿命は10年以上で10cmを超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は6~9月。

資源評価

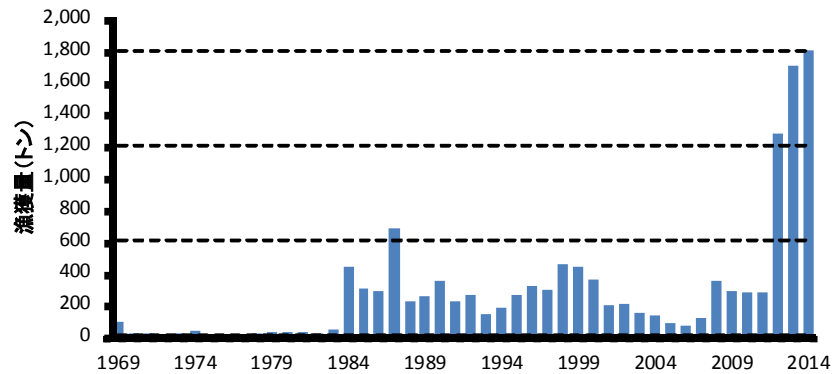
水準：高位



動向：増加



漁獲量



千葉県におけるチョウセンハマグリ漁獲量の経年変化
(2006年まで千葉農林水産統計年報、2007年から千葉県調べ)

- ・ 1969~1983年は低位で推移していたが、1984年以降は70~660tで増減を繰り返し、2012年以降1,000t以上の漁獲が続いている。
- ・ 2012年以降は、2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が増加したものと考えられる。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2014年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は増加。

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で、漁具の目合、殻長（3cm以下は漁獲できない）、使用漁船のトン数など制限を設けている。
- ・ 資源保護区域の設定に加え、貝桁網漁業では操業隻数・日数の制限など、鋤簾漁業では禁漁期の設定など漁業者が自主的な資源管理を実施している。

イセエビ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺網により漁獲される。
- ・ 3歳で全長制限の13 cmに達する。
- ・ 産卵期は5～9月。

資源評価

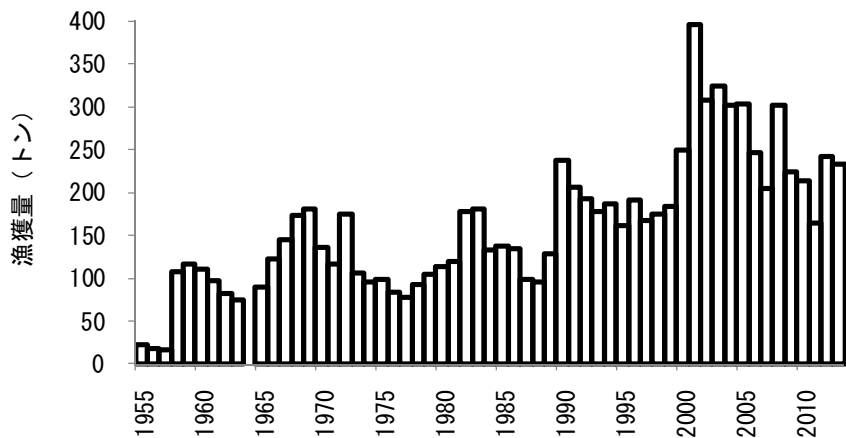
水準：高位



動向：増加



漁獲量

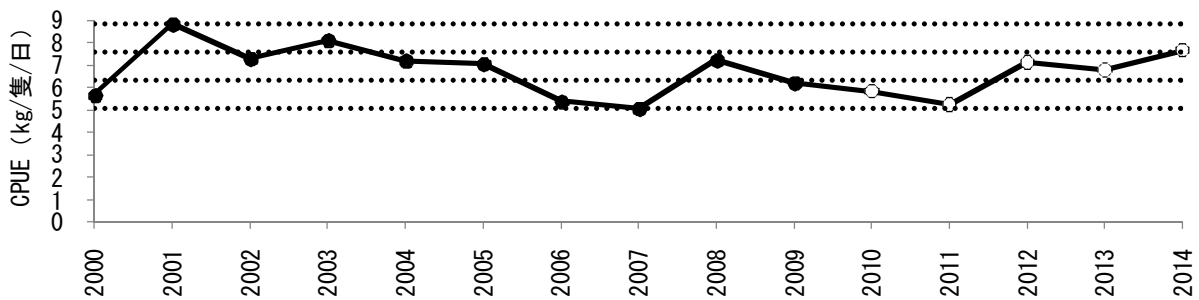


イセエビ全県漁獲量（漁業・養殖業生産統計）の経年変化

- ・ 1955年以降、おおむね増加傾向。
- ・ 最大は2001年の396トン。
- ・ 2013年は233トン。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要地区刺網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2014年は最近15年間の高位。最近5年間の動向は増加。



イセエビ主要地区刺網漁業CPUEの経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県海面漁業調整規則で全長制限（13 cm以下は漁獲できない）と禁漁期間（6/1～7/31）が定められている。
- ・ 漁具（反数）の制限、操業時間の制限、小型個体の再放流等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。